

遠 友 だ よ り

はっこう
発行
さっぽろえんゆうじゅく
札幌遠友塾
じしゅやかんちゅうがく
自主夜間中学



遠 足 （円山動物園） は笑顔がいっぱい！

5月17日（日）、55名の参加で遠足（円山動物園）が実施されました。好天に恵まれ、美味しいお弁当も食べました。ゾウさん親子、ペンギン（鳴き声が聞けた）、フラミンゴ（どうして一本足で立っているんだろう）キリンなど多くの動物を観ることが出来ました。皆さん笑顔の楽しいひと時でした。



みなさんで記念撮影



2年クラスのみなさん



いざホッキョクグマ館へ



じっくりクラス昼食準備



1年クラス男性スタッフの笑顔



3年クラス、笑顔でポーズ

＝ 賛助会費等のご寄付、本当にありがとうございます！ ＝



この5月から6月にかけて、払込み票に書かれておりましたメッセージをご紹介します。

・「大学の社会人向け講座に行っていたのですが、正門から社会人向けの入り口までの坂道が歩きづらく休んでいます。なさけない。＜Tさん：堺市＞」

・「立派な冊子、今までの歴史の重みを感じつつ読ませていただきました。＜Yさん：北区＞」

「こんばんは」の映画の笑顔から力をいただきました！

～ 5月24日 上映会開催、札幌市教育文化会館にて ～



映画「こんばんは」は2003年に制作された「夜間中学」を題材にした作品です。映画の舞台は「東京都墨田区立文花中学校」の夜間学級です。様々な理由で「普通に学ぶ機会」が得られなかった人々が年齢・国籍に関係なく学んでいます。異年齢間の交流、教師と生徒の温かい人間関係、そして受験競争のための勉強ではなく、生きるために学ぶ姿。不思議なやさしさと温かさに包まれた、今まで出会ったことのないような学校がありました。

出演者の中に、小学校から不登校でした「秋元伸一さん」がおりました。家族以外の人とは話すことが出来ませんでした。彼が話すことが出来るようになるまでの過程が温かく描かれています。

その「秋元伸一さん」が、2026年6月6日（土）に開催の「北海道

に夜間中学をつくる会」の総会にて講演してくれました。題して「不登校になって、夜間中学、高校、大学に通って、仕事をして、今思うこと」でした。

この映画を鑑賞され講演会に参加していただいた方も多数おりました。今回は映画の鑑賞への3名の方の一言感想を記載します。講演を聴いた方々の感想は次号に掲載したいと思います。

日常の当たり前の事が特別な事なんだと思いました。声を出して話すことが出来ない伸ちゃんの優しい顔つきと戸惑いの顔つきが愛おしくて涙が出ました。何より、回りの優しいおじいちゃん達の声かけと、自然に接している先生達の優しさに感動しました。（受講生のMさん）

「こんばんは」を見せていただき、真摯に、又、沢山の行事を楽しむ笑顔から力をいただきました。見城先生の「学校とは、生活に根ざし、生きる希望になるものだ」のお言葉、そして「雨ニモマケズ」「菊の花」の授業に吸い込まれました。伸ちゃんにお会いできるのが楽しみです。

（スタッフSさん：6月6日にお会いできました＜筆者注＞）

本日の映画の鑑賞を通じ、公立夜間中学校に携わる者として多くの気づきと感動を与えていただきました。特に印象に残ったのは、学ぶことが単なる知識の習得ではなく、「自分らしく生きる力」や「社会とのつながり」を取り戻す営みとして描かれていた点です。夜間中学の原点ともいえるこのような教育の姿勢を、本校の取り組みに活かしていきたいと感じたところです。貴重な機会をありがとうございました。6月5日に秋元伸一さんにご来校いただけること、楽しみにしております。

（札幌市立星友館中学校 山田哲也校長先生：6月5日にお会いできました＜筆者注＞）